



みんなでつくったホタルの里。

太田児童クラブ

会長：石倉 宏祐

発表児童：6年生 (5名)

当クラブは、太田地区より庄南小学校へ通う児童、102名から成るクラブです。

地区内には毎年、鮎や鮭がそ上する「庄川」の清流があり、その流れのもとすくすく育つ子供たちと地区民がともに楽しく、遊びを通じて様々な活動をしています。

参加はいつも自由で、あくまでも子供達の自主性に任せており、自然を生かした活動をする事で、より地域への関心と探求心を養っています。



■ 発表テーマ ■

「庄川自然の里“太田”」での活動報告

砺波市太田の住民で組織する「庄川の自然を考える会」が国土交通省の協力を得て、2003年1月、池と小川を完成させた。水質汚染のバロメーターにしようと、池にはニジマスやコイ、小川にはホタルの幼虫やカワニナを放流した。ゴミ拾い、放流活動、ホタル観察会、魚釣り大会などの1年間の活動を報告。

石倉会長より

あらためて自分たちの住む環境の大切さと、守ることの意義を学びました。

本年度の主な活動は、地区内を流れる庄川の河川敷に完成した池と小川を利用したものとなりました。

「遊び」を通じて自然の大切さを学び、発表という機会をとおして、あらためて「水」の未来を考える場を与えて下さったことは子供たちだけではなく、活動に参加した地域の人たちや、私自身、大変意味のあるよい経験となりました。

「見て」「聞いて」の学習は「忘れる」ことがあります。

ですが、自ら「動く」ことで学んだものには言葉以上に大きな意味があると思います。

最後に、当クラブ活動に対し、ご協力下さった様々な人たちに心から感謝申し上げます。



▲クラブの代表が元気良く登場。



▲活動報告を分かりやすく発表しました。



▲新聞にも活動内容が掲載されました。ホタルの群を見て大人のほうがはしゃいでたね。



▲これからもホタルの里をまもってください。

考えたこと・感じたこと

生命とのふれあいを通じて未来をつかっていきたい。

僕たち、私たちが大人になったとき、この庄川自然の里“太田”はどうなるのだろう。太田児童クラブのみんなで、これからもこのピオトープを支え、様々な生命との貴重なふれあいができる場所にしていきたい。



学習テーマの設定

庄川自然の里“太田”。年々環境破壊が進む中、庄川の美しい自然を残していきたい。地区のみんなで考え、自然と親しみ行動する、一年間を通じた活動を報告しました。



「庄川自然の里“太田”」



2003年1月ピオトープの完成。「庄川の自然を考える会」が国土交通省の協力を得て完成した、自然に近い、ピオトープ（野生生物が共存共生できる生態系を持った場所）をつくりました。

学習の展開

5月3日 放流活動。コイとニジマス200匹を放流。そのあと、ホタルの幼虫とそのえさを放流。大きく育つかな。



放流活動（5月3日）



ゴミ拾り

みんなで作ったピオトープ。みんなでつくった自然の里だから、管理も自分たちで積極的にいきます。定期的なゴミ拾いもかせません。

6月22日 ホタル鑑賞会。自分たちの手で放流し育てたホタルが、1匹また1匹と…。40匹以上のホタルが空を舞い、とても感動的だったね。



「ホタル観察会」（6月22日）



「庄川で遊ぼう」（9月2日）

9月22日 庄川で遊ぼう。最悪の雨だったけど、5月に放流したコイとニジマスが20センチ以上に大きく育っていてビックリ。

楽しかった魚釣り。釣り針返しをはずして、魚にダメージを与えないように釣りを楽しみました。もっと大きくなってね。

